

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通／花ユニット・木ユニット)

事業所番号	2795000054		
法人名	株式会社カームネスライフ		
事業所名	グループホームここから吉田本町		
所在地	東大阪市吉田本町2-2-12		
自己評価作成日	令和5年9月23日	評価結果市町村受理日	令和5年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年10月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者の方が安心して楽しく過ごして頂けるように職員は日々の関り・気付きを大切に支援に努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は(株)カームネスライフを法人として、23ヶ所のグループホームを運営するここから「こことからだ」グループにあり、2ユニットで開設して16年になる。東大阪市の東部、近くには花園ラグビー場があり散歩に出かけていたが、今はお祭りの布団太鼓の見物にとどめている。今後は地域の行事に参加したり事業所の催しに招待したりの交流を予定している。利用者の認知度・周辺症状・介護拒否・職員の入れ替わり・コロナクラスターへの対応と、管理者・館長は2人体制で、職員とコミュニケーションをとりながら日々奮闘し、利用者の思いを理解し寄り添い穏やかな生活への支援に努めている。2・3年前より3名の外国人技能実習生が就業し、利用者と日々会話や関わりを持ち技術の向上を目指し、今では事業所にとって大切な職員となっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】			

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域における家庭的な環境とケアサービスの提供、地域からの信頼を構築していくことを方針にし事業所に掲示している。	事業所理念は「地域に根差し、地域と共に互いに支える生活を提供していきます」として玄関や事務所の目に付く所に掲示している。毎月の職員会議や勉強会で理念の大切さを話し合い実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入。自治会の方に運営推進会議にご参加いただき地域と交流が図れるように努めている	自治会に加入し自治会長より電話で行事の情報を貰い、今は行事に参加はしていないが、秋祭りの布団太鼓の見物に出かけ地域の方と交流している。今後は地域の行事に参加する予定でいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、外部の方に参加はしてもらえないが、毎月、カフェを開催。カフェを通じて認知症の方への理解を深めてもらえるように。交流の場が設けられるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催が出来ていないが書面で施設内の状況・取り組みを説明報告している。	運営推進会議は書面開催として、自治会長・婦人部長・地域包括支援センター・家族に現況報告をしている。今後は対面での運営推進会議を開催する予定でいる。家族に現況報告の書類を送り事業所で開示している。	2ヶ月に1度書面開催としてメンバーに現況報告をしているが、メンバーからの意見や情報を得られていない。運営推進会議の議事録は現況報告だけでなく、メンバーから頂いた意見や情報を記載した議事録を作成することを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の事業所連絡会や研修に参加し協力関係が築けるように取り組んでいる。コロナ禍の為、現在は中止しているが介護相談員の方にも毎月、来館してもらえるように取り組んでいる。	施設法人課に書類の提出、相談・介護保険課に報告や申請に出向いている。ケースワーカーの訪問を受けたり電話で情報を伝えている。保健所からコロナ感染の情報を得る他、クラスター時には電話やメールでアドバイスを貰っている。グループホーム連絡会に参加しているが今は休止している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体だけではなく言葉の拘束がないかスタッフ間で話し合いを行っている。	身体拘束についてのマニュアル・指針を用意して、年2回研修を実施している。身体拘束訂正化の為に委員会を3か月に1度開催し、議事録を職員に回覧・閲覧・確認し、薬剤による過剰摂取・スピーチロックなど事例を用い話し合い、身体拘束しないケアに努めている。玄関は施錠しているがフロア間は自由に行き来できる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、日々の業務で虐待に繋がらないように支援を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定毎に資料を送付し、ご入居時には十分に説明を行い、ご理解・納得がいただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には気軽にお声をかけていただけるように雰囲気づくりに努め、ご家族の方からご意見を頂いた時には朝礼や会議でカンファレンスを行い運営に反映が出来るように努めている。	家族とは電話や訪問時に意見や要望を聞いており「申し送りの不手際」・「食事中の対応」などの意見が届き、苦情ノートに記載し会議で話し合い改善に繋げている。利用者から食事の不満が聞こえた時は普段出ない食事の提供をしたり、イベント食等工夫して意見の反映を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表は週1回の会議の場で意見を聞く場を設けている。(現在はオンラインでの開催) 管理者としては日々の中で職員からの声が聞けるように努めている。	毎月職員会議を開催し、ケアの方法・困難事例など意見交換の場になっている。年2回の管理者面談では、仕事の状況・悩み・資格取得の推薦等について話し合わせ、資格取得には支援体制が設けられている。職員は新聞・環境・行事・リスクの担当を受け持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員、一人ひとりの勤務形態に柔軟に対応が出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の研修。外部への研修はコロナ禍の為、控えているが機会があれば参加が出来るように配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東大阪市の事業所連絡会に入会し、定期的に勉強会に参加している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の相談時・面接時にご本人・ご家族からお話を聞き、安心・信頼していただけるように関係づくりに努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前の相談時・面接時にご本人・ご家族からお話を聞き、安心・信頼していただけるように関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所内で行える体験入居の説明。また必要に応じて他の介護サービスの案内を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも掲げている。ともに生活者として支援が出来るように日々のコミュニケーションや一緒に洗濯たたみなどを行い関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、玄関での面会や電話でご本人の状況をお伝えし共にご入居者の方の生活が支えられるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了承を得て面会をご自由にしていただいている。	家族や近所の友達の訪問があったり、自分の携帯電話を持ち話をしている。実家を訪ねたり、家族と法事やお葬式に出向いたりしている。ユーチューブで昔の懐かしい映像を見たり、昔の音楽を聞き懐かしんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室での一人の時間・空間も大切にリビングではご入居者の方同士が談笑し関りが持てるように。個々の入居者の方に合わせ配慮し支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居をされてからもご連絡を頂いた場合は相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員、一人ひとりが日々の関りの中で言葉や表情から思いを汲み取り把握に努めている	入居時に生活歴や思い・好きなことを聞き、ケアマネージャーからの情報等をアセスメントシートに記録している。お花が好きな人には一緒にプランターの花植えをして利用者の思いに寄り添っている。日常の職員との会話の中で思いやしたいことを聞き出し、仕草などに気づいて利用者の思いに添えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時やご家族からのお聞きしたお話を通して把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通して、心身の小さな変化にも気づけるように気付いた事を共有できるように細かな話し合いを行い努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や日常生活から見出した情報と職員船員の意見から介護計画をたてている	介護計画は短期目標3か月・長期目標6か月としている。介護計画見直し時は家族の要望を聞き、医師の情報を取り入れ、毎月のモニタリングを参考に担当職員と話し合い介護計画を作成している。利用者に変化があれば関係者に連絡し介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや日々の変化を把握し日常の様子を個別に記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の心身の状況に応じて、適した方法を選択している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事参加している。また、散歩やお花見・遠足などで地域の方と交流が図れるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医や提携病院等ご希望に応じて対応を行っている	1名を除き全員が協力医の訪問診療を受け、希望と必要に応じて歯科医・歯科衛生士の訪問診療を受けている。他の専科受診については、主治医の指示により、家族又は事業所（所長・管理者）の対応としている。数名が訪問マッサージを受けており、拘縮などについての助言ありとしている。訪問診療（内科・歯科）については何れも介護保険扱いでの居宅療養管理指導が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護時や電話で報告・相談を行っている。随時、適切な医療が受けられるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時・入院中にご家族と共に病状説明を聞き、早期に退院が出来るように話し合いを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には説明を行い、意向の確認を行っている。重度化されたとき看取りを希望されたときには主治医とご家族と話し合いを行い支援に取り組んでいる	重度化や終末期対応については入居時に説明し確認を得ている。状態変化に応じて主治医、本人と家族、事業者側との話し合いで看取り体制をとり、声掛けや食事摂取への対応、家族との連携や協力などで最終ステージを支えたいとしている。現在、退院後の看取りケア希望者2名の対応、チーム連携などについて協議中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を実施している	4月に自主訓練実施、10月に消防署立ち合いでの訓練を、来年2月に地震想定訓練を、何れも自力歩行可能者参加で予定している。BCPは本部策定に当事業所の特性を加味したものである。非常勤職の訓練参加が十分でない点と、地域連携体制の遅れを課題としている。3日分の備蓄食と防災用具の備えはある。	近在職員が5～6名としているが、近隣住民との連携は必要である。近年の自然災害頻発の状況も鑑み、運営推進会議での協力依頼と、全職員の複数回の訓練参加についての検討と実践を望む。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者の方に応じた言葉で声かけを行うように配慮をしている	永年勤続からの 慣れと親しみ を混同した言動は、若い新入職者への影響もあるとして、日々の気づきに注意している。研修では認知症についての理解を深めることも、人格尊重とプライバシー確保につながるとして、実践指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の意見を聞きだせるように関わりを持つように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせて食事や就寝時間など希望に沿って支援が出来るように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容やご本人の意向を大切にし好みを聞き出したりと支援が出来るように努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	同じテーブルで食べ和やかな雰囲気です食事が出来るように努めている	業者搬入の食材(生鮮と冷凍)を、3名の調理担当者が交代体制により1階でまとめて調理している。日常での会話から食べたいものを聞いてメニューに入れ、行事食やおやつカフェでのケーキのバイキングなど、職員も一緒に美味しく楽しく味わっている。食事前の嚥下体操、車イスからの移乗で食べる姿勢保全、食事介助での注意など、食べることの重要さへの配慮もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態にする。水分不足にならないよう把握し声掛けで促し援助している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、うがいと、定期的な義歯洗浄を実施している。必要な方は歯科往診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンにあわせて声かけや誘導を行っている。	利用者の生活習慣を大切に、自分のペースで排泄できるように介助する、出来だけトイレで排泄する、排泄しやすい姿勢がとれるように介助する、排泄用品の適切な使用法の検討、介助の失敗をステップアップに繋ぐなど、個々人の状態状況に合わせての支援で自立の保持、自立へ向けての支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分摂取量を把握し足りない方などはお好みの飲み物を提供したり、ラジオ体操等運動ができる機会を設けている。チェック表により排泄状態の確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な回数は設定しているが、御本人の気分や状態に合わせてすすめている。	常に入浴準備を整え、個々人の状態状況を見ながら週3回を基本に、流動的に入浴支援を行っている。同性介助に応じるが、身体が大きく重たい人や車イスの人が浴槽への移動時にはやむを得ず男性が対応している。極端な拒否者には家族の面会時に声掛けなど協力してもらうこともある。入浴剤使用や季節湯の楽しみはないが、夫々の入浴スタイルで、寛ぎのひと時となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが好きな時間に寝て動けるよう配慮している。夜間眠れるように昼間の活動時間を考慮することもある。消灯・起床時間は決めずにそれぞれの時間で過ごしていただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書がいつでも見れるようにファイルをし確認が出来るように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが得意な掃除や食器洗いなどの家事の役割が決まっていたり、好きな遊びを楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、行えていない。	「5類」後も慎重を期して外出支援は自粛状態にあり、面会時に家族と外食を楽しんだ事例のみである。11月になって家族との外出、外泊を検討したい、本来の外出支援に向けて職員とも話し合い、前向きに考えていくとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本にお金の預かりはないが、自分で支払いたい方には配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方は手紙が出せるよう支援し、電話もご家族と相談の上使っていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした広さと柔かい照明でくつろげる雰囲気をつくり、季節が感じられる壁画や日本の昔ながらの行事の貼り絵等を貼り出して楽しんで頂いている	リビングは明るく、利用者で作った季節感のある作品で壁面を飾り、馴染みの関係に配慮したテーブル配置の他、その日の気分で移動自由な場所作りなど、快適で心癒される生活空間を作ろうと努力している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	グループや一人で過ごす場所がほぼ決まっており、御本人が居たい場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	荷物の制限はなく御本人の希望に応じて家具などを置かれている。	ベッド、クローゼット、洗面台が既設され、テレビの他に使い慣れた小家具、家族写真や好みの品々を使い勝手よく整え、その人らしく暮らしていける場となっている。職員が週1回清掃に当たっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人が出来ることは事故がないよう見守り、自由に生活をしていただく。		